

所属・資格 ドイツ文学科・教授

申請者氏名 渋谷 哲也

研究課題		ニュージャーマンシネマを中心としたドイツ映画の包括的検証
報告の概要	研究目的 および 研究概要	1960-70年代に興隆した新しいドイツ映画および21世紀の新しい作家映画「新ベルリン派」について、グローバルな映画史の文脈およびドイツ社会と政治の中での位置づけを包括的に考察する。これまで日本にも重点的に紹介されてきたファスビンダー、クルーゲら、近年の映画作家ペッツォルト、シャーネレからの新しい美学の在り方を探る。そのために上映とレクチャー討論の機会を設け、東京のアテネ・フランセ文化センター、京都の出町座などで行う。また当時のドイツ映画全般の傾向を概観しつつ、研究書を執筆するべく準備を始める。
	研究の 結果	研究成果としてファスビンダー、ヴェンダース、アレクサンダー・クルーゲらの代表的な作品を上映し、それに合わせて考察を展開した。とりわけファスビンダーの『リリー・マルレーン』、『自由の暴力』、『エフィ・ブリースト』は上映劇場において複数回のレクチャーを開催し、クルーゲについては監督へのインタビューを行うこともできた。また映画『関心領域』の上映に合わせて、ナチスとホロコーストに関連する映画を上映し、それについてのレクチャーを連続して展開する企画も実現した。それぞれの映画美学と歴史的背景を詳細に考察する機会となり、それぞれの作品に社会や映画史に対する独自性の批判性が見られることを解明することができた。
	研究の 考察・ 反省	今回の研究は個別の作品を中心に考察を展開することが多かったため、各作家のフィルモグラフィを概観し、さらには広い映画指摘文脈での位置づけを行うまでには至らなかった。今後の課題としては、これまで積み重ねてきた個別の作品・作家研究の成果を、包括的なドイツ映画研究、またはニューシネマ研究という形で俯瞰的、領域横断的に論文化することが重要だと考える。 それと同時に映画上映とレクチャーを継続して行う意義も大きいので、今後も積極的に行っていきたいと考える。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	公開レクチャー 特集：関心領域の向こう側 「関心領域」「ゲッベルスと私」「メンゲレと私」「キエフ裁判」「復讐者たち」レクチャー 2024年9月6日-10日 出町座（京都）	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	『ファスビンダー傑作選 2024 公式 ZINE』 ファスビンダーの生涯 「リリー・マルレーン」「自由の暴力」「エフィ・ブリースト」「不安は魂を食いつくす」 「マリア・ブラウンの結婚」「天使の影」解説 2024年8月発行	